

であるが、然らざるものいうことには容易に応じない。人間は牛や馬を見る眼はないが、牛や馬は人間に対する鑑別はすこぶる敏である。これを怠って、牛や馬を馬鹿にしたら、あべこべに馬鹿にされて、とんでもない目に遭うのである。進駐軍の隊長もその一人である。

× ×

和崎さんの演説会は、どこも満員の盛況である。これまでは政談演説といえは候補者は男に限られ、きくものも男で、女などはなかったが、この度の選挙は、女にも選挙権が与えられ、女の候補者が現われ、自分たちの手で、自分たちの代表者をえらぶ喜びと得意の盛況でもあったと同時に、壇上における女弁士の雄弁ぶりをきくというものもあるが、見るため集まっているものが多かった。そしてこの集まりの中の女、特に農村の年をとった女には、文字のかけないものが多かった。

自分に同情を寄せている来会者の男でも女でも、文字をかけないために、投票することは出来ず、棄権したり、白票を投じたりされては、どう考えても残念でならなかった。それで和崎さんは、壇上から呼びかけた。わたしは和崎ハルだが和崎を省略して、ハルとかけばいい。そのハルと書くことをわすれたら、お辞儀するときのように畳の上に両手をおけば、これがハである。それからもう一ぺん両

手をおいてから、右の手を上ピンとはじけばルとなる。どうかみなさんわすれないで下さい。と壇上で実演して見せるので、これがひどく人気を呼び、帰宅しからの話題となり、文字のかけない年をとった女たちも、手真似して、これならおれたちも書けるといって和崎党の善男善女が、町にも村にも殖えて行くのであった。

愈々投票となって開いて見たら、ハルの右にはじかずして左にはじいているものや、外(そと)にはじくべきを内(うち)にはじいているものなども大分あったが、明らかにハルに投票したものと判定されて、これらはすべて有効投票として取扱われ、県下各町村毎に和崎さんは、男の候補者を押えて、十万二百四十七票という大量の得票を獲得して第一位に当選し、第二位当選者と実に二万九千五百五十四票の開きを見たのであった。

その人気のほどが窺われるのである。斯うして全県下を一区として、終戦後はじめて行なわれた普選は本県は女子によって第一位を占められたのであった。和崎さんは、思想的には保守よりも革新に稍々近かった。和崎さんと共に婦人参政権獲得運動に奔走して、当選した婦人中には保守に走らなかつたが、当時共産党の勢力が強く、皇室に対する考え方が革新系中にも、共産党に近いものなどもあったので、皇室尊敬の念強い和崎さんは、革新に走らず保守に走ったのであった。

戦争が終ったばかりのこのごろの日本は未だ独立を認められず、マッカーサーの指示によって動かなければならなかつた。一年前に総選挙を行ったばかりの幣原内閣は、国内諸情勢の変化と、新憲法公布により辞職を余儀なくされ、第一次吉田内閣が成立し、昭和二十二年四月二



和崎ハル記念碑 (秋田市金照寺山)

十五日総選挙が行われた。全県一区となっていた選挙区制は全県を二区制に改められた。和崎さんの議会生活は、わずか一年と短かかったの

服と洋品
ちば
湯沢市中央通り(旧浦町)電2522

で、和崎さん自身としては、再び出馬の意思を表明したが、このごろの和崎さんの身体には、和崎さんには知らされなかつた癌腫にとりつかれていたので、身よりのものは余り進まなかつたし、和崎さん自身もまた以前のような活動力がなくなっていた。それがため当選には到らなかつた。

× ×

二男三女はそれぞれ処を得て、家庭的には心配のない身であった。十六年間の秋田の生活は、実にあわただしく、華やかであったが、齢五十才をすぎたら、疲れを覚えるようになったと自らも語るのであった。大阪における長男の許に身を寄せて休養することになった。

女性解放に、婦権獲得に、戦時中は傷病兵慰問に、未亡人救援の和崎ハル女史秋田を去るの報道は、秋田の人々に大き